

平成22年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H22年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H22年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
1 義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「将来の夢や目標を持っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 86.7 %	小 90 %	小 89.4 %	81.8	小学校・中学校ともに目標とする値に近づいてきている。特に中学校においては、適切な進路選択のための指導を効果的に実施していきたい。
			中 73.0 %	中 80 %	中 75 %	28.6	
3 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「将来の夢や目標を持っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	高 70.4 %	高 80 %	高 %		
4 高校教育課	H23年 3月	・就業体験を実施している高校の割合	高 65.6 %	高 80 %	高 62.5 %	-21.5	H22年度は、実施校が1校減少したこと、高校新設による母数の増により、現状値が低下。今後は、未実施の高校に実施を働きかけていく。
5 高校教育課	H23年 3月	・企業等で実習体験をしている生徒の数	高 150 人	高 300 人	高 454 人	202.7	対象となる学校・学科を増やすことで、大きな成果が得られた。今後は、各学科の参加生徒数を増やしていく。
6 高校教育課	H23年 3月	・企業等の研修に参加した教員の数	高 162 人	高 180 人	高 184 人	122.2	研修は長期休業日又は休日に実施されているため、部活動との関係で多くの先生が参加しにくい状況にあるが、教員間の協力を得て、研修に参加し、技術力の向上を図っていく。
7 義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「国語の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 81.8 %	小 90 %	小 86.2 %	53.7	小学校、中学校ともに目標に近づいてきている。教育課程指導資料等、本課作成の資料等をいかし、授業改善の指導を効果的に実施していきたい。
			中 72.1 %	中 80 %	中 75.4 %	41.8	
9 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「国語の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 57.7 %	高 70 %	高 %		
10 義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「算数（数学）の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 79.2 %	小 90 %	小 80.3 %	10.2	算数、数学とも、目標とする値に近づいてきており、今後も学校訪問や教育課程説明会などとおして、教師への指導助言を続けていきたい。
			中 62.1 %	中 70 %	中 65.6 %	44.3	
12 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「数学の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 51.3 %	高 70 %	高 %		
13 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「英語の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 45.5 %	高 60 %	高 %		
14 義務教育課	H23年1 1月	・学習指導要領に示された目標に沿った指導と評価を実践するために、各教科毎に学力を観点別にとらえた評価規準を整備している学校の割合	小 91.2 %	100 %	小 100 %	100	授業実践を行うなかで、作成した評価規準の改善に取り組むよう、指導をしていきたい。
			中 89.6 %		中 100 %	100	
16 高校教育課	H23年 4月		高 92.5 %		高 96.3 %	50.7	新学習指導要領の趣旨を踏まえた評価規準の見直し、今後の課題となる。

平成22年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H22年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H22年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
17 義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか」の設問に「全くしていない」と答えた児童生徒の割合	小 3.6 %	小 2 %	小 3.7 %	-6.3	小学校に関しては若干増加しているがほぼ同じ値である。中学校に関しては0.6%減少しているが、まだ目標に差がある。家庭学習の充実、学習習慣の確立等を図ってほしい。
18	中 9.3 %		中 5 %	中 8.7 %	14		
19 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の授業以外に、1日だいたいどのくらい勉強しますか」の設問に「全く、または、ほとんどしない」と答えた生徒の割合	高 28.2 %	高 15 %	高 %		
20 義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「総合的な学習の時間の勉強は好きですか」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合	小 82.4 %	小 90 %	小 82.9 %	6.6	H19年度と比較すると、「当てはまる」と回答する児童生徒の割合が増えてきている。教育課程説明会等の場を活用して、学校現場に魅力的な実践事例を広く紹介していく。
21	中 68.5 %		中 80 %	中 73 %	39.1		
22 高校教育課	H23年 6月	・教員や生徒により小中学生への授業等を実施している高校の割合	高 62.1 %	高 80 %	高 75 %	72.1	目標値に近づいているが、未実施校については今後の働きかけを強めていく。
23 義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「学校のきまりを守っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 88.8 %	90 %	小 91.5 %	225	平成25年度の目標値に到達することができたが、更に児童生徒の決まりを守ろうとする意識が高まるよう、道徳教育の充実にも努めたい。
24	中 87.1 %		中 91.5 %		151.7		
25 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の規則を守っている」の設問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合	高 85.2 %		高 %		
26 義務教育課	H23年 4月	・道徳の授業を地域住民や保護者に公開している学校の割合	小 34.8	70 %	小 98.4 %	180.7	「やまなし」心づくり推進運動等とおして、各学校へ授業公開の実施を呼びかけた結果、平成25年度の目標値に到達することができた。更に割合が高くなるよう継続した取組を実施したい。
27	中 27.1		中 89 %		144.3		
28 義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「人が困っているときは、進んで助けている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 82.4 %	90 %	小 84.6 %	28.9	少しずつではあるが、目標値に近づいてきている。今後も、各小・中学校において道徳教育の充実が図られるよう、「やまなし」心づくりリーダー研修等の場で指導を続けていく。
29	中 77.6 %		中 80.1 %		20.2		
30 義務教育課	H21年度調査項目から 削除	・「全国学力・学習状況調査」における「海、山、湖、川などで遊んだ経験がある」の設問に「何度もあった」「時々あった」と回答した児童の割合（小学校）	小 84.8 %	90 %	小 %		
31		・「全国学力・学習状況調査」における「海、山、湖、川などに行き、自然の素晴らしさを感じた経験がある」の設問に「何度もあった」「時々あった」と回答した生徒の割合（中学校）	中 86.4 %		中 %		
32 高校教育課	H22年12月	・文化部の活動を充実させるために行われている高校芸術文化祭への参加者数	18,416 人	20,000 人	19,238 人	51.9	H19年度と比較すると割合は増えたが、生徒数の減少が見込まれる中で、目標値の変更も考えられる。

平成22年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H22年度 現況値の公表時期	指 標 の 概 要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H22年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
33 義務教育課	H23年 8月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「いじめの認知件数」	小 251 件	小 200 件	小 130 件	237.3	小学校においては、すでに目標をクリアし、中学校においても徐々に目標に近づきつつある。更なる成果を上げるよう、生徒指導主事研修会等において今後とも継続して指導し、目標達成を目指す。
34	中 319 件		中 230 件	中 270 件	55.1		
35 高校教育課	H23年 9月		高 169 件	高 100 件	高 111 件	84.1	
36 義務教育課	H23年 8月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「不登校児童生徒」の人数	小 188 人	小 160 人	小 141 人	167.9	すでに小中ともに目標をクリアし、さらには調査以来初めて全国平均を下回ることができた。今後とも現場の教職員や市町村教育委員会に取組の強化をお願いし、更なる減少を目指していきたい。
37	中 995 人		中 700 人	中 678 人	107.5		
38 高校教育課	H23年 9月		高 299 人	高 280 人	高 254 人	236.8	
39 義務教育課	H23年 8月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「暴力行為」の件数	小 6 件	小 3 件	小 37 件	-1033.3	教職員の毅然とした粘り強い指導にもかかわらず、目標達成に困難な状況にある。暴力行為を繰り返し起こす児童生徒への対応とともに、未然防止の取組を再度依頼する中で、改善を目指したい。
40	中 135 件		中 90 件	中 198 件	-140		
41 高校教育課	H23年 9月		高 72 件	高 50 件	高 70 件	9.1	
42 義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「家や図書館で、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」の設問に「全く、または、ほとんどしない」と答えた児童生徒の割合	小 15.4 %	小 10 %	小 16.2 %	-14.8	小学校に関しては若干増えているがほぼ同じ値である。中学校に関しては0.6%減少しているが、まだ目標に差がある。H23年度の実績を不読者の削減におき、読解力向上事業や学力向上事業などにおいて、教員が取り組みやすいプログラムを提示し、数値の改善を図りたい。
43			中 32.5 %	中 20 %	中 31.9 %	4.8	
44 高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の授業以外で1日だいたい、どのくらい読書を読みますか」の設問に「全く、または、ほとんどしない」と答えた生徒の割合	高 50.5 %	高 30 %	高 %		
45 スポーツ健康課	H23年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で授業以外で週3日以上運動・スポーツを実施している小学生（5・6年生）の割合	小 48.2 %	小 65 %	小 47 %	-7.1	一校一実践運動の更なる推進と、運動をしない児童、運動の嫌いな児童への積極的働きかけを実施していく。また、授業の充実に加え、教科外の体育的な活動や、家庭や地域との連携を密に取り組む。
46 スポーツ健康課	H23年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で小学生（5年生）のボール投げの平均値のピーク時（昭和56年）の値に対する割合	小 81.7 %	小 90 %	小 79.5 %	-26.5	運動量の確保だけでなく、多様な動きを経験し、その動きの質を高めていくことに努める。また、様々な遊びや運動に取り組み、ボール・縄・遊具などの操作及び身のこなしが育まれるような運動を意図的に行わせる取組みを実施していく。
47 スポーツ健康課	H23年 4月	・薬物乱用防止教室を実施している学校の割合	中 29.2 %	中 60 %	中 58.2 %	94.2	中学校、高校ともに実施率は向上している。目標達成に向けて教室開催の外的環境を整えるため、講師候補・協力団体の名簿を作成し、各校に配布するよう努める。
48			高 87.5 %	高 100 %	高 93.9 %	51.2	

平成22年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H22年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H22年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
49 50 51	スポーツ健康課 H23年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で児童生徒が朝食を摂取している割合	小 91 % 中 84 % 高 78.3 %	小 95 % 中 90 % 高 90 %	小 92 % 中 87.3 % 高 81.7 %	25 55 29.1	食習慣・睡眠の確保といった規則正しい生活習慣を持つ児童・生徒の体力が高い傾向があることから、家庭での生活スタイルや生活リズムの意識・及び行動のあり方を再考していく必要があり、学校から保護者等に対する啓発をより一層推進していく。
52 53 54	スポーツ健康課 H23年 5月	・食に関する指導全体計画を作成している学校の割合	小 64.2 % 中 53.8 % 高 10.2 %	100 %	小 84.2 % 中 74.7 % 高 46.7 %	55.9 45.2 40.6	平成19年度と比較すると全て計画の作成率は向上している。今後も食に関する指導の必要性について考える機会を増やし、計画の作成につなげる。
55 56	新しい学校づくり推進室 H23年 3月	・一人ひとりの児童生徒の障害の状態や発達段階等に応じた学習指導を行うための「個別の指導計画」を作成している小中学校の割合	小 57.2 % 中 39.8 %	70 %	小 82.1 % 中 74.5 %	194.5 114.9	小・中学校ともにH25年度の目標値を上回っており、取組への理解と促進が図られている。教育課程の説明会や担当者研修会等において、作成に関する研修を実施したことによる成果が現れている。今後対象となる全ての児童生徒について作成を進める。
57 58	新しい学校づくり推進室 H23年 3月	・一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関が連携して適切な指導及び必要な指導を行うための「個別の教育支援計画」を作成している小中学校の割合	小 46.2 % 中 35.7 %	70 %	小 79.1 % 中 72.3 %	138.2 106.7	小・中学校ともにH25年度の目標値を上回っており、取組への理解促進が図られている。作成に当たって保護者の同意を必要としていることから、継続して担当者研修会等において作成に関する研修を実施し、作成を進める。
59	新しい学校づくり推進室 H23年 4月	・県立特別支援学校高等部の新卒生徒の就職割合	14.6 %	20 %	6.1 %	-157.4	H19～H21年に比較し、大幅に減少している。厳しい雇用情勢の中で、正規採用を大幅に抑制する企業等が多かったことが、減少の要因と推察される。引き続き新規職場開拓に取り組むとともに、進路指導支援員の活用や関係機関と連携しながら進路指導、就労支援を進める。
60 61 62	義務教育課 H23年 3月	・省エネ・省資源活動等に取り組んでいる学校の割合	小 87.8 % 中 84.4 % 高 75.9 %	100 %	小 96.9 % 中 91.2 % 高 96.7 %	74.6 43.6 86.3	以前よりこの取組については、高いものがあったが、H19より取組をスタートさせたエネルギー推進事業により、リーフレットや推進キャンペーンなどで、更に取組の向上が見られる。今後、100%を達成するために、事業を充実したものにしていきたい。
63	高校教育課 H23年 3月	・福祉の心を培い、福祉の実践力を高めるための福祉教育に取り組む高校の割合 ※ 小・中は100%達成済	高 92 %	高 100 %	高 100.0 %	100	各校の実態にあった福祉教育の実践がなされている。
64 65	義務教育課 H23年 9月	・コンピュータや提示装置等を活用して指導する能力を持つ教員の割合	小 56.8 % 中 56.3 %	小 70 % 中 70 %	小 61.3 % 中 59.9 %	34.1 26.3	情報機器の整備は進んできたが、中学校では教科担任制のため、機器の移動を伴うことが多く、活用しにくい状況がある。そのため、現況値が微増という状況になっている。今後も学校の情報化を働きかけていきたい。
66	高校教育課 H23年 9月		高 64.3 %	高 80 %	高 65.4 %	7	ワゴンプロジェクト等を活用する教員が固定化しており、多くの教員が活用できる活用事例を紹介し、ICT機器の活用の奨励していく。
67	高校教育課 H23年 6月	・大学教員による授業を取り入れている高校の割合	高 69 %	高 80 %	高 53 %	-145.5	教科教育を専門とする大学教員をアドバイザー・スタッフとして高校に招聘し、各校の授業研究に参加することを主眼とした「高等学校授業研究事業」が、平成21年度をもって終了したことから、実施校数が減少した。今後は、大学等で主催する高校生向けの講座への参加を奨励する。

平成22年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H22年度 現況値の公表時期	指 標 の 概 要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H22年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
68 義務教育課	H23年 2月	・教育活動に係る自己評価に対する学校関係者評価を実施・公表している学校の割合	小 39.9 %	100 %	小 100 %	100	平成22年度において、実施・公表している学校の割合は100%に達した。今後、学校評価の質的な向上を図るため、PDCAの改善サイクルにより実質的な課題解決が行われるよう、学校運営の改善を働きかけていく必要がある。
69			中 43.8 %		中 100 %	100	
70 高校教育課	H23年 6月		高 71.7 %		高 98 %	92.9	
71 義務教育課	H23年 2月	・保育所や幼稚園との交流活動を年に3回以上行った小学校の割合	小 39 %	小 60 %	小 47 %	38.1	H19年度と比較すると、「年3回以上交流を行う」小学校の割合が増えてきている。幼保小の連携研修会等を行い、実践事例を広く紹介していきたい。
72 高校教育課	H23年 3月	・乳幼児とのふれ合い体験を実施している高校の割合	高 79.3 %	高 100 %	高 83.3 %	19.3	5校の全日制高校で未実施である。今後は、選択科目や教科外活動としての実施を模索していく。
73 社会教育課	H23年 3月	・様々な知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合	0	100 %	96.3 %	96.3	学校応援団設置市町村は、平成21年度は17市町村だったが、平成22年度は26市町村になった。一方、放課後子どもプラン対応市町村も平成22年度は26市町村であった。今後は、その内容を充実していきたい。
74 義務教育課	H23年 9月	・学校のホームページで情報提供を行っている学校の割合 ※ 高校は100%達成済	小 62.2 %	80 %	小 73.3 %	62.4	学校の統廃合により、ホームページを開設していた学校が減ったこともあり、現況値が下がっている。市町村により開設の状況に差があるので、働きかけを続けていきたい。
75			中 60.2 %		中 64.5 %	21.7	
76 生涯学習文化課	H23年 4月	・「やまなしまなびネットワークシステム」で提供している学習機会や人材等の学習情報へのアクセス件数	836,370 件	1,000,000 件	898,495 件	38	ネットワークへのアクセス数は、着実に増加してきている。平成20年度には、機器の更新とともにセキュリティの強化等システム改修を行っている。今後は、インターネットによる在宅学習講座など、ニーズに応じたコンテンツの充実を図りたい。
77 生涯学習文化課	H23年 4月	・県、市町村、大学、民間団体等が連携し、多様な学習機会を提供する「キャンパスネットやまなし」に入学した人の数（累計）	3,098 人	5,000 人	4,356 人	66.1	毎年、400人前後の入学数で推移している。連携機関への協力依頼、また、ことぶき勤学院、生涯学習センター等主催の講座に出向き、直接PRすることにより新規入学者を確保している。今後は、更に若年層への周知を図ることにより、入学者増につなげたい。
78 生涯学習文化課	H23年 3月	・「キャンパスネットやまなし」において所定の単位を取得し、奨励賞を交付された学習者の数（累計）	1,154 人	2,300 人	2,007 人	74.4	昨年度は、244名の奨励賞受賞者を輩出した。特に、キャンパスネットやまなし事業始って以来、初めて3,000単位取得者が現出している。今後は、それらを単位取得を目指す方々の指標となるようにしていきたい。
79 社会教育課	H23年 3月	・様々な知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合	0	100 %	96.3 %	96.3	学校応援団設置市町村は、平成21年度は17市町村だったが、平成22年度は26市町村になった。一方、放課後子どもプラン対応市町村も平成22年度は26市町村であった。今後は、その内容を充実していきたい。

平成22年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	H22年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H22年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
80 スポーツ健康課	H23年 3月	・いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブを設置している県内市町村の割合	53.6 %	100 %	85.2 %	68	残り4町村となった未設置町村に対し、年2回の訪問による指導、広域スポーツセンターと連携して、地域住民への説明会などを実施し、設置準備に向けた意識の向上に努める。併せて総合型クラブフェスタ等の啓発活動の充実を図る。
81 スポーツ健康課	平成22年度調査なし	・週1回以上スポーツを実施している成人の割合	32.4 %	50 %	%		平成23年度調査予定
82 スポーツ健康課	H22年10月	・国民体育大会における個人、団体の上位8位以内の入賞数	83 人・団体	100 人・団体	90 人・団体	41.2	引き続き天皇杯得点900点、20位台を目標とする。
83 スポーツ健康課	H22年 8月	・選手、指導者がアンチ・ドーピングへの意識啓発のための講習会に参加している県内競技団体の割合	70 %	100 %	73 %	10	山梨県体育協会と連携を図り、全ての競技団体（40競技）が参加している会議ハドーピング講習会を盛り込むよう働きかける。
84 スポーツ健康課	H23年 3月	・トップレベルの競技者の養成・確保のための一貫指導体制を確立している競技団体の割合	55 %	100 %	85 %	66.7	指導マニュアル等を積極的に使用又は作成して体制整備している団体が40団体中34団体と増えてきている。今後更に一貫指導の理解を含め成果をあげる。
85 生涯学習文化課	H23年 5月	・県民文化ホールで開催した主催事業への入場者数	17,951 人	20,000 人	33,486 人	758.2	H21に指定管理者が変更し、県民参加型事業等の自主事業が増加したことにより、入場者数の増加に繋がっている。今後もより魅力ある事業を企画することにより、入場者数の増加に努めていく。
86 義務教育課	H23年 4月	・県立博物館と連携して教育活動を行っている学校の割合	小 40 %	50 %	小 41.1 %	11	小・中学校ではあまり増加がみられない。博物館を活用する場合に、交通機関が必要になるが、近隣の学校から積極的に活用するよう呼びかけていきたい。また、併せて郷土学習での活用も呼びかけていきたい。
87 -----	中 34 %		中 31.5 %		-15.6		
88 高校教育課	H23年 6月		高 31 %		高 34 %	15.8	
89 生涯学習文化課	H23年 4月	・県民の文化芸術活動の発表及びその鑑賞の場である県民文化祭への参加者数	218,973 人	222,000 人	229,838 人	358.9	目標値は達成できている。今後も、芸術文化団体に対する支援など、県内の芸術文化活動の促進を図ることにより、県民文化祭への参加者数に反映できるようにしていきたい。
90 学術文化財課	H23年 3月	・県内の国・県指定文化財の件数	660 件	690 件	669 件	30	県文化財保護審議会各委員及び市町村教育委員会の文化財担当者との連携を図るなかで未指定文化財の掘り起こしを行っており、今後も継続して行うことにより新規指定を促進する。